

# 市場から世界をみれば

IS6 情報システム株式会社 大谷淳一



次の通りである。

- ① 市場とは
- ② 水の問題
- ③ 遺伝子操作の問題
- ④ 水産資源の問題
- ⑤ TPPの問題
- ⑥ 食料安全保障の問題

る。

市場では、産地と呼ばれる「販売額」が確定して、一般の取引に相当する。市場では、産地と呼ばれる「販売額」が確定して、一般の取引に相当する。市場では、産地と呼ばれる「販売額」が確定して、一般の取引に相当する。市場では、産地と呼ばれる「販売額」が確定して、一般の取引に相当する。

食わせていくだけの食糧のめどは、現時点ではたっていない。これから飢餓の世界と食糧の争奪が、世界を揺るがしていくことは間違いのない。戦争も勃発するであろう。

食糧の中枢である「市場」に焦点を当ててみよう。日本は、世界にも例がない「生鮮」の世界をつ

る。市場では、産地と呼ばれる「販売額」が確定して、一般の取引に相当する。市場では、産地と呼ばれる「販売額」が確定して、一般の取引に相当する。市場では、産地と呼ばれる「販売額」が確定して、一般の取引に相当する。市場では、産地と呼ばれる「販売額」が確定して、一般の取引に相当する。

## 第1回「生鮮の世界」

今でもその兆候ははっきり出ているが、だれも問題提起をしていない。

くり上げてきた。その代をとり、販売額から手数料を引いた残り（仕切り金という）を、荷主に「受託未払い金」として支払うこととなっている。つまり市場での取引

生鮮の世界は、私たちが考えているほど「単純」ではない。

日本は、東北で発生した大震災（東日本大震災）に見舞われた影響でこれらの問題を棚上げにしてきたが、いよいよ世界が動きだし、日本もその影響下に入り出した。

をとり、販売額から手数料を引いた残り（仕切り金という）を、荷主に「受託未払い金」として支払うこととなっている。つまり市場での取引

現在でも世界の食糧事情がひっ迫しているにもかかわらず、2050年には世界の人口は89億人になるといわれている。そしてその世界全人口を

問題は数多く存在するが、この連載では「生鮮」問題」を論じてみたいと思う。論じていく項目は、

競りというと築地の「まぐろ」の競りを思い

1957年北 北海道美唄市生まれ。85年、食品管理、生鮮管理のシステムを開発する情報システム（高崎市）を創業。荷受卸売業者や食品製造会社、仲卸売業者向けの

競りというと築地の「まぐろ」の競りを思い

出すが、野菜や果物、魚花なども基本的には「競り」で売買が行われている。

コンサルティング、セミナー、業務改革、講演を各地で行っている。主な執筆として「青果卸の業務改善」「青果卸の業務改善2」「食糧操作」などがある。